

福祉環境委員会記録

令和7年9月22日(月)
14時29分～15時15分
第2委員会室

【委員】 肥後委員長、上野副委員長、
柳楽委員、串崎委員、布施委員、川神委員

【事務局】 久保田書記

【議題】

- 1 議会による事務事業評価について（委員間で協議）
- 2 【取組課題】 中山間地におけるエネルギーシフトについて（委員間で協議）
- 3 次期福祉環境委員会への申し送り事項について（委員間で協議）

【別紙会議録のとおり】

【会議録】

[14 時 29 分 開議]

○上野副委員長

ただいまから福祉環境委員会を開会する。出席委員は5名で定足数に達している。
なお、肥後委員長から欠席の届出が出されている。
それでは、レジュメに従って進める。

1 議会による事務事業評価について（委員間で協議）

○上野副委員長

前回の委員会で各委員から提出された議員事務事業評価シートを基に、正副委員長でまとめた議会評価意見書の案を確認してもらった。先日19日の予算決算委員会の協議後に各議員から提出された議員事務事業評価シートを基に、本日協議を行い、当委員会の議会評価意見書を完成させたい。なお、案内されているとおり、9月26日の全員協議会で議会評価意見書について協議が行われ、議会評価意見書を完成させることとなっている。協議の前に、各委員から何か確認しておきたいことはあるか。

（ 「なし」という声あり ）

それでは、各委員の意見や加筆、調整すべき内容について、発言をお願いする。加筆、調整すべき内容については、どの文言をどのように修正したいかを具体的に発言してもらい、整理したい。

まず、介護人材確保・定着対策事業についてお願いする。委員会の案は、事業内容は要改善、予算規模は拡充で、評価理由は記載のとおりである。なお、予算規模を拡充とする場合は、財源措置の考えについても求められているので、意見をお願いする。

○布施委員

事業評価は、意見が分かれて当然であると思う。深く掘り下げていけば要改善、拡充となるが、予算決算委員会での質疑の内容は、当委員会委員が質疑する場合は、その部分が分かった状態でされ、当委員会としては、要改善、拡充だが、表面だけ見ると評価は分かれると思う。事業の効果について深掘りすると、まだやり方が違うのではないか。また、多方面から見ればできるのではないか。そのためには、この予算では足りないというのが当委員会の意見である。当委員会としては、要改善、拡充で最終的な判断とする。財源については県の事業も入っているが、県の事業が縮小したからといって市の取組を後退させるのではなく、市単独の予算を付けるべきである。一般会計事業なので、一般会計から予算を持ってくるべきと考える。

○川神委員

事業を組み立てるとき、国や県の補助制度を活用し、それを補完する形で市の施策を構築する場合もあるが、基本的には市単独でやるのか、補助金などを活用するのかという判断になる。仮にほかの財源が減少しても、当市として、きちんと意思を持

って拡充すべきである。市長が提案し、議会としてもそのような形で進めるべきである。事業は市が主体となってやるべきで、国や県がやるから我々もやるという姿勢ではいけない。市が責任を持って進めるためには、責任を持って予算措置する必要がある。ほかの委員の意見も聞いた上で判断したいが、当委員会としてはこれで良いのではないか。

○柳楽委員

処遇改善が不可欠であるということで、「市の事業として、より直接的な支援ができないか検討すべきである」というところがある。確かにそのような方向もあると思いつつも、これは介護に限らず看護の分野も人材が不足しているので、そことの兼ね合いはどうか。

○布施委員

事務事業評価は次年度につながるために行うものであり、最初にやるにしても、そこをつなげるためにそのような考え方も必要だと思う。看護師も同様に不足しており、市独自の支援策は本当に考えていかなければならない。しかし、具体的な支援策について、まだ答えはない。串崎委員が言ったとおり、事業所ではなく人材に直接支払う制度があれば離職者が減り魅力的だが、法的な制約もあり難しいだろう。予算決算委員会内で田畑議員の発言にもあったが、農業分野だけでなく、保育士などほかの職種でも処遇改善は必要になってくる。

○柳楽委員

すごく引かかる部分があるが、ほかの委員において特に問題ないのであれば、このままで良い。

○川神委員

赤字の開業医についての全国調査について39.2%という数値が出ており、6割くらいしか経営できていない。2030年医療問題で、団塊の世代が後期高齢者になってきたら、現在以上に医療スタッフ、介護スタッフがいなくなる。国は在宅シフトを言っているが、労働力が極端に減るため、全体の経営が縮小して大変な問題になる。近い将来、大変なことになるという覚悟を皆で持つ必要がある。

○上野副委員長

ほかに意見がなければ、先ほどの意見を付け加えて、正副委員長でまとめることとしたいが良いか。

(「はい」という声あり)

続いて、地域医療連携事業についてお願いします。委員会の案は、事業内容は要改善、予算規模は拡充で、評価理由は記載のとおりである。なお、予算規模を拡充とする場合は、財源措置の考えについても求められているので、意見をお願いします。

○布施委員

予算決算委員会での執行部との質疑応答で、広域の事務局長や担当者と意見交換した内容と、当市の担当課長の答弁に少しずれがあるように感じた。研修会について、東部では実施しており、西部でも今年度から開催される予定だが、課長は東部でやっ

ているという認識のようであった。現場との認識に少し差があると感じる。川神委員が指摘された医療関係の崩壊や開業医の減少などの2030年問題、本当に深刻な問題である。当該事業や医師確保対策の項目だけでは、対策が薄いように感じる。各議員の評価は、要改善が多いが、予算は現状維持が多数派である。拡充すべきと考えていたが、逆転しているのだからどうかと思った。

○川神委員

要改善だからといって、必ずしも経費の増額に直結するわけではない。仕組みを変えるなど、お金をかけずに改善できることもある。しかし、基本的には何か新しいことを始めようとするれば、人件費やほかの経費が発生するため、何らかの形で経費が増加するのは当然であると考えます。意識改革だけで変更できるのはごく一部で、経費の増額は付いて回るものだと思う。

○串崎委員

委員会として、今すぐ結果が出るものではなく数年先に出ると考えられるため、要改善、拡充と意見がまとまった。

○上野副委員長

それでは、この件については、当委員会の案のとおり、要改善、拡充で進めて良いか。

(「はい」という声あり)

続いて、地域の再エネ導入支援事業についてお願いします。先ほどと同じように、委員会としての案は、事業内容は要改善、予算規模は拡充で、評価理由は記載のとおりである。なお、予算規模を拡充とする場合は、財源措置の考えを求められているので、意見をお願いします。

○串崎委員

これも先ほどと同様に、福祉環境委員会としては、要改善、拡充で意見がまとまった。正直に言えば、執行率が低い現状を考えると、予算を使い果たすことは難しいと考えており、個人的には、要改善、現状維持としていた。しかし、前回の当委員会の話合いで、重要な課題であり市民へのPRのためにも予算は拡充して積極的にやるべきであるという結論に至り、私も拡充に賛同したので、このままで良いと思う。

○布施委員

この事業について、全議員の評価シートを見ると、事業内容については、要改善の意見が多いが、予算規模については、縮小という意見も3人から出ている。目標を達成できていないからと目標を下げるのは、事業としてどうなのか。ゼロカーボンシティを目指す当市の宣言と方向性が違って来る。

事務事業評価は難しい。議会としてやるのか、委員会としてやるのか、その位置付けが難しい。委員会至上主義ならそれで良いが、改めて全議員に意見を求めると、また違う意見が出てくる可能性もある。

26日の全員協議会で、この事業に対しては、達成していないので縮小かもしれないが、ゼロカーボンシティを目指す当市としては、目に見える形で市民に訴える必要

があるので、事業についてマッチングしていない部分については、事業化し費用が必要である。取組項目を見直す必要がある。

○上野副委員長

それでは、この事業についても、当委員会の案のとおり、要改善、拡充で進めて良いか。

(「はい」という声あり)

それでは、ただいまの意見を基に、正副委員長で議会評価意見書を調整し、各委員に確認してもらった後、当委員会としての意見書として、全員協議会の資料としたいと思うが良いか。

(「はい」という声あり)

それでは、そのように進めることとしたい。引き続き、各委員の協力をよろしく願います。

2 【取組課題】中山間地におけるエネルギーシフトについて（委員間で協議）

○上野副委員長

令和5年11月1日に当委員会の構成について、現在のとおりとなった際に、取組課題として中山間地におけるエネルギーシフトを掲げ、これまで先進市視察や意見交換会を行ってきた。その内容について、当委員会の構成が変わる前に、意見書・要望書として、本会議の最終日、29日の全員協議会で全議員に向け報告を行い、併せて執行部へも提出したいと考えている。ついては、素案を正副委員長で考えてみた。このことについて、このような形で報告・提出することで良いか。

(「はい」という声あり)

それでは、29日の全員協議会で、肥後委員長から報告を行いたい。その後、同日の本会議終了後、正副委員長で市長へ提出したいと思うが良いか。

(「はい」という声あり)

3 次期福祉環境委員会への申し送り事項について（委員間で協議）

○上野副委員長

前回の委員会において、委員会内で採択した陳情について、任期満了に伴い、きちんと引継ぎ資料を作成し、次期の委員会に継続して調査審査をしてもらうことで、申し送りを行うという意見があり、申し送ることを決定した。そこで、資料のとおり、正副委員長で案を作成した。各委員には事前に確認をしてもらっていると思うが、このとおり申し送ることで良いか。

(「はい」という声あり)

それでは、次期の委員会へこのとおり申し送りたい。その他、委員から何かあるか。

(「なし」という声あり)

それでは、以上で福祉環境委員会を終了する。

[15 時 15 分 閉議]

浜田市議会委員会条例第65条の規定により、ここに委員会記録を作成する。

福祉環境委員会副委員長 上 野 茂